

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。日増しに秋の深まりを感じる季節となりました。

ワールドカップ：ラグビー日本の目覚ましい活躍に日本人として誇らしく感じました。試合終了後「ノーサイド」の精神には私達も見習わなければと思います。これからの季節、冷え込みが厳しくなりますのでお身体には気をつけてください。

サンライズの物語

今、私たちにできること—— 対策の必要性を痛感する物語



先日10/12の大型台風到来時のこと。各区からの緊急警報が携帯や広報車でアナウンスされましたが、弊社でも各利用者からの問い合わせに翻弄されておりました。

「避難勧告や警報が発令されても逃げられない」「川が氾濫したら1階でベット上に寝たきりの夫をどうしたら良いのか」「どこに連絡すれば助けてくれるのか」「車椅子で避難所へ行ってもエレベーターがなかったら2階に行けないのでは」等々の質問・・・考えさせられました。

以前緊急時に医師がトリアージ（患者の重症度に基づいて治療の優先度を決定すること）する時の思いを聞いた事がありました。まだ息をしている人達を見放し生きられる人から救っていく時の虚しさ、悲しさ・・・

地震など予測不可能な天災もありますが、台風などの予測可能な事態の時の対策（緊急時の対応）官民一体となって早急に考えなければならぬと思いました。対策を講じなければ、要介護者の人達はテレビから「命を守る行動を取って欲しい」と言われても自身ではできないのです。

誰かが考えるのではなく、私達一人一人が声を上げ行政や地域に訴える事が、今回の災害で命や財産を失った方々に報いることに繋がるのではないかと考えます。

サンライズのデイサービス陽光だより

【介護職員】
木村 紀子



サンライズのデイサービス陽光の介護職員の木村 紀子です、よろしくお願いいたします。

以前は訪問介護で、ヘルパーとして務めておりました。今までの経験を活かして皆さまに喜んでいただけるように頑張っております。毎週土曜日に勤務しています。よろしくお願いいたします。

【入社8/16】 【血液型O型】



井上から
エール!

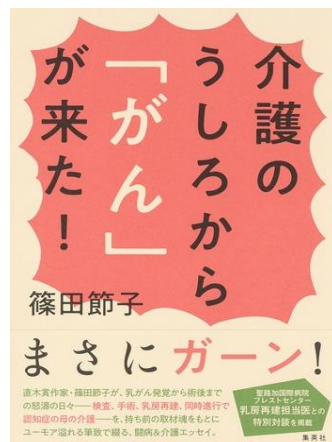
木村さんをどうぞよろしくお願いいたします。

介護に役立つ書籍紹介

介護のうしろから「がん」が来た!

著：篠田 節子

作家・篠田節子が乳がん発覚から術後までの怒濤の日々——検査、手術、還暦過ぎでの乳房再建、同時進行で老健にいる母の介護——を、持ち前の取材魂をもとにユーモア溢れる筆致で綴る闘病&介護エッセイ。乳房再建手術を担当した聖路加国際病院・ブレストセンター形成外科医との対談「乳房再建のほんとのトコロ」も収録。



NEWS 今月のニュース

人生の最期 共有体験

志賀で地域福祉の研修会

志賀町の西増穂、西海、東増穂の三地区の地域福祉推進チームは、同町の酒見構造改善センターで「地域の高齢者と共に今日（いま）を生きる」と題した合同研修会を開き、六十人が参加した。

三地区の民生児童委員協議会の主催で、民生児童委員、老人福祉員、保健推進員らを対象とした。町社会福祉協議会から社会福祉士三人を講師として招いた。

どんな最期を迎えたいかを家族や周囲の人と話し合い共有する「人生会議」を体験した。死ぬ直前は自宅や病院など、どこで過ごしたか、延命治療はどうするかなどにチェックをつけた。講師は、医療機関の支えにより自宅で最期を迎えることを選んだ人は九人だったと体験結果を紹介した上で、家族との意思疎通と医療機関の準備が必要だと助言した。

身の回りのちょっとした困り事を手助けする有償ボランティア「志っ賀りサポート隊」の取り組

みの解説もあった。

出席した保健推進員の同町酒見の安田佳子さん（52）は「自分がどういう思いで最期を過ごすか、今まで考えたことがなかったが、いいきっかけになった。役割を確認でき、思いを持って接することができる」と話した。



<中日新聞
2019年10月8日(火)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>